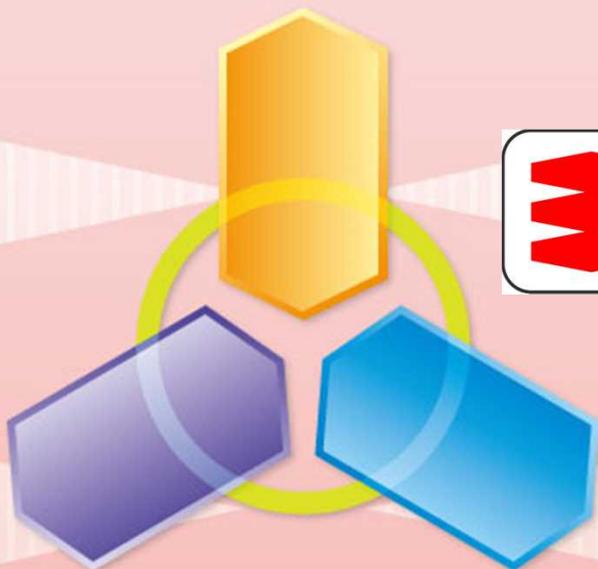


2016年3月期決算の状況と 中期経営計画の進捗について



2016年6月6日

目 次

2016年3月期決算の概要

	ページ
業績サマリー	… 2
通期業績予想	… 3
預貸金	… 4
有価証券運用	… 6
非金利収益	… 7
経費	… 8
信用コスト	… 9
不良債権	… 10
自己資本比率	… 11

中期経営計画「成長 ～地域とともに～」の進捗について

	ページ
中期経営計画「成長 ～地域とともに～」	
概要	… 13
組織戦略	… 14
法人戦略	… 15
個人戦略	… 17
計数計画	… 18
女性活躍の加速、地方創生	… 19

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。これらの記述はリスクと不確実性を内包しており、将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は経営環境に関する前提条件の変化等に伴い目標対比変化することにご留意下さい。本資料は、当行に関する理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。

【本件に関するご照会先】

三重銀行 総合企画部 石原

TEL 059-354-7172 FAX 059-355-8225

E-mail koho@miebank.co.jp

2016年3月期決算の概要

貸出金の利息収入は前期比減少したが、経費の減少や信用コストの改善により、経常利益、当期純利益は同増益

(百万円)

〈単 体〉	16/3期	前期比
コア業務粗利益	21,281	▲ 784
資金利益	16,506	▲ 657
うち貸金利息収入	14,886	▲ 741
うち預金等利息支払(▲)	1,336	△ 51
うち有価証券利息収入	3,819	▲ 78
非金利収益 ※	4,775	▲ 127
経費(▲)	17,741	△ 630
コア業務純益	3,539	▲ 154

有価証券関係損益	619	▲ 165
----------	-----	-------

信用コスト(▲)	△ 131	△ 413
----------	-------	-------

当初業績予想

経常利益	5,137	4期連続 増益 350	4,500
------	-------	----------------	-------

当期純利益	3,500	2期連続 増益 319	2,900
-------	-------	----------------	-------

(百万円)

〈連 結〉	16/3期	前期比
経常利益	5,705	4期連続 増益 600

親会社株主に帰属する 当期純利益	3,677	4期ぶり 減益 ▲ 214	3,100
---------------------	-------	------------------	-------

※非金利収益＝コア業務粗利益－資金利益
(▲:損益にマイナス、△:損益にプラス)

資金利益 前期比 ▲657百万円			
	ボリューム要因	利回要因	計
貸出金	(+388億円) +4.4億円	(▲0.09p) ▲11.8億円	▲7.4億円
預金等	(+458億円) ▲0.3億円	(△0.01p) △0.8億円	△0.5億円
有価証券	(+62億円) +0.5億円	(▲0.03p) ▲1.3億円	▲0.8億円

有価証券関係損益 前期比 ▲165百万円 (百万円)				
	債 券	前期比	株式等	前期比
売却益	420	▲268	394	95
売却・償還損	▲185	△4	▲10	△3
償却(減損)	—	—	—	—
計	235	▲264	384	99

通期業績予想



- 非金利収益増強により、コア業務純益は増益を計画
- 有価証券関係損益、信用コストを保守的にみていることから、経常利益、当期純利益は減益を計画

(億円)

〈単体〉	17/3期	
	業績予想	前期比
経常収益	270	▲4
コア業務純益	37	+2
経常利益	40	▲11
当期純利益	27	▲8

(億円)

〈連結〉	17/3期	
	業績予想	前期比
経常収益	326	▲3
経常利益	44	▲13
親会社株主に帰属する 当期純利益	29	▲8

17/3期 計画(単体) (億円)

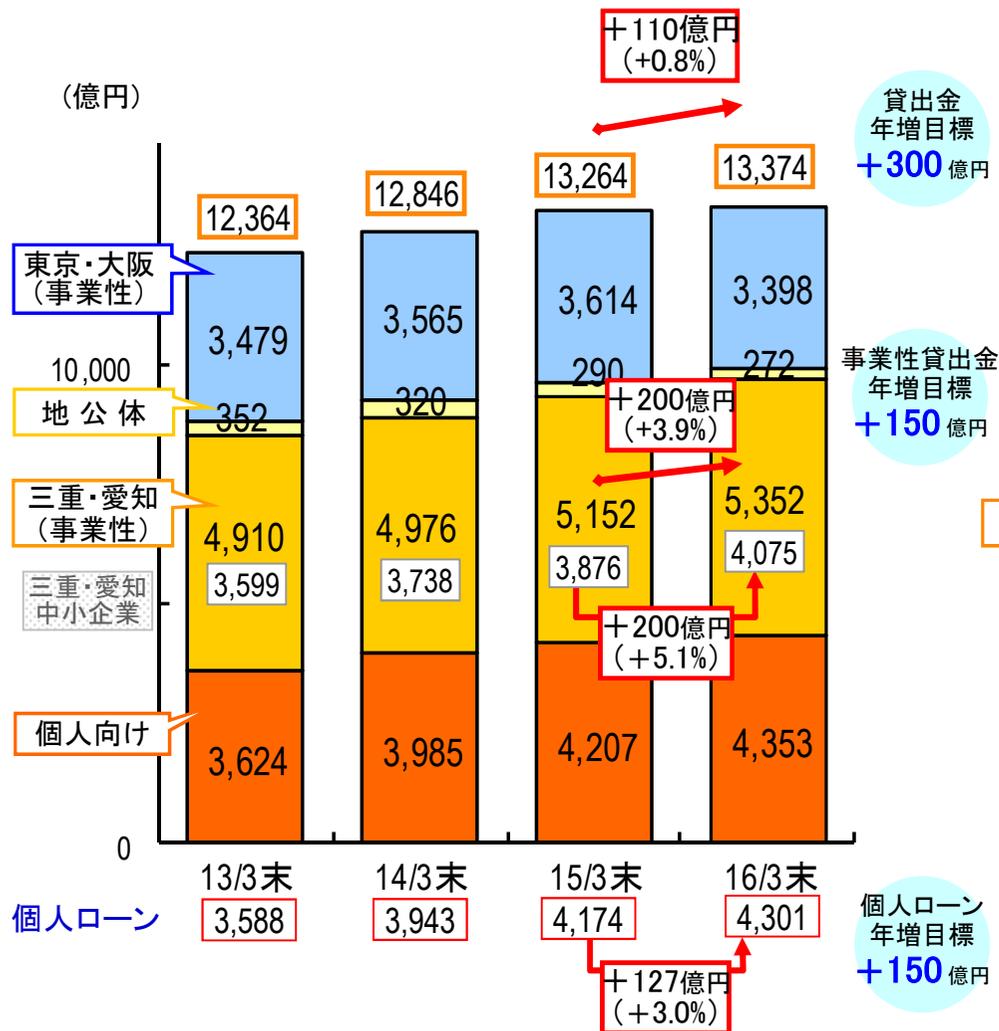
	17/3期 計画	前期比
コア業務粗利益	220	7
資金利益	165	0
うち貸金利息収入	144	▲4
うち預金等利息支払(▲)	9	△4
うち有価証券利息収入	37	▲1
非金利収益	55	7
経費(▲)	182	▲5
コア業務純益	37	2
有価証券関係損益	4	▲2
信用コスト(▲)	5	▲6
経常利益	40	▲11
当期純利益	27	▲8

預貸金①

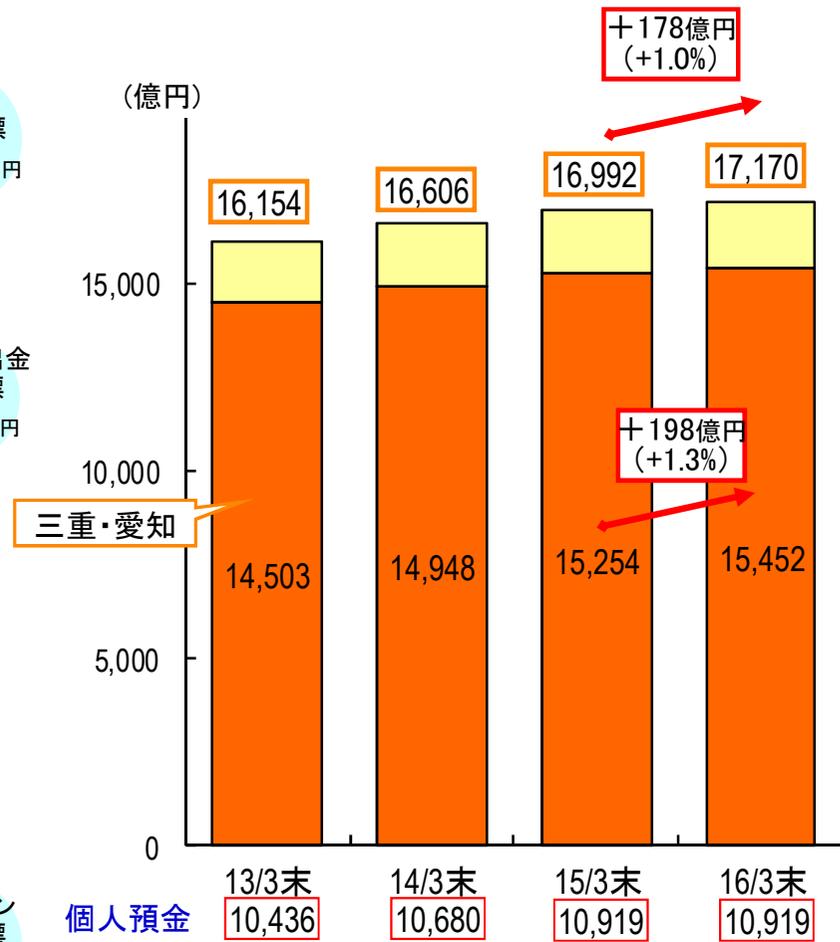


- 貸出金は、地元事業性貸金、個人ローンともに着実に増加
- 預金は、地元預金を中心に増加

■ 貸出金残高



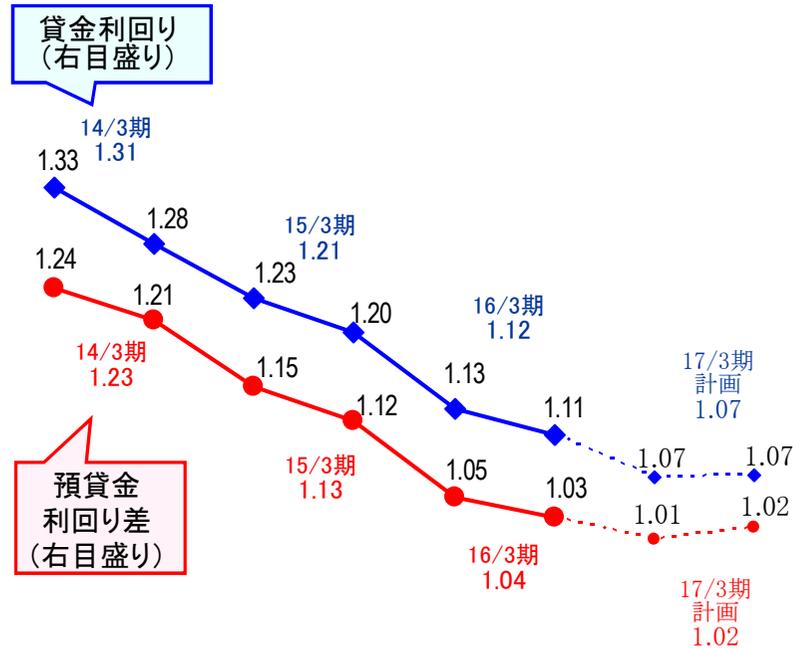
■ 預金等残高



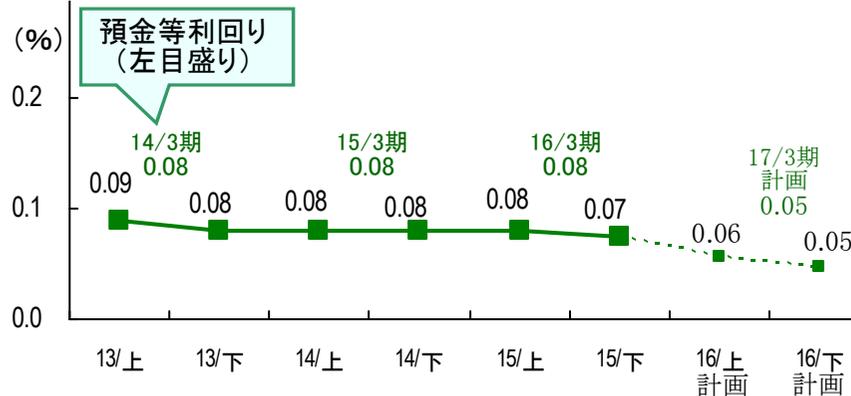
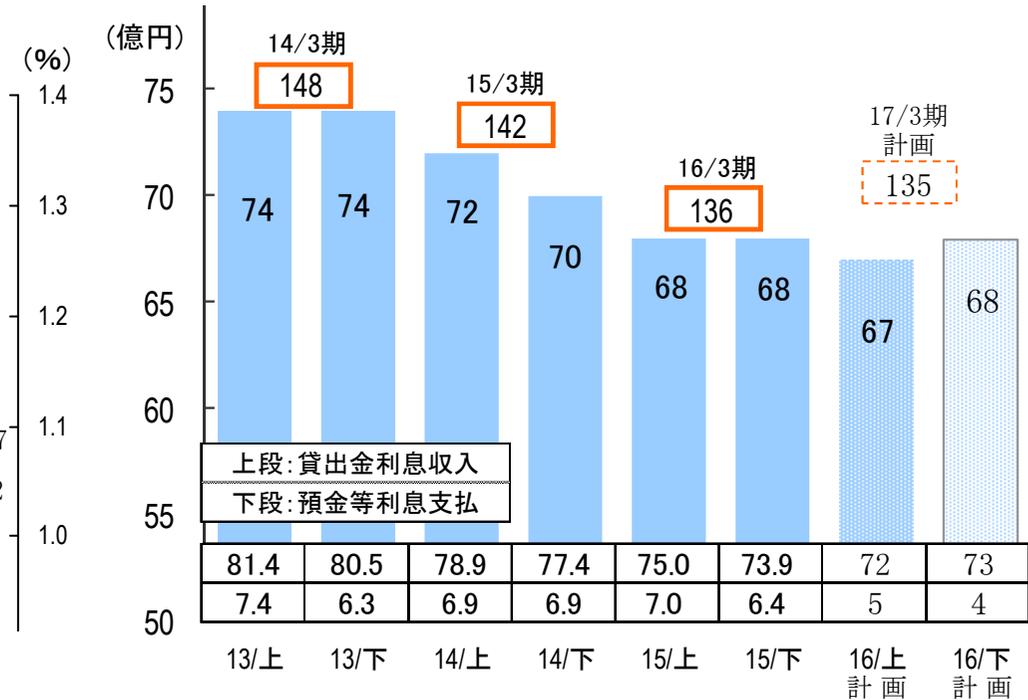
預貸金②

■ 無担保個人ローンの増強、地元小口貸金の増強により、貸金利回りの低下幅縮小を目指す

■ 預貸金利回り差



■ 預貸金利息収支



預貸金利息収支増減 内訳

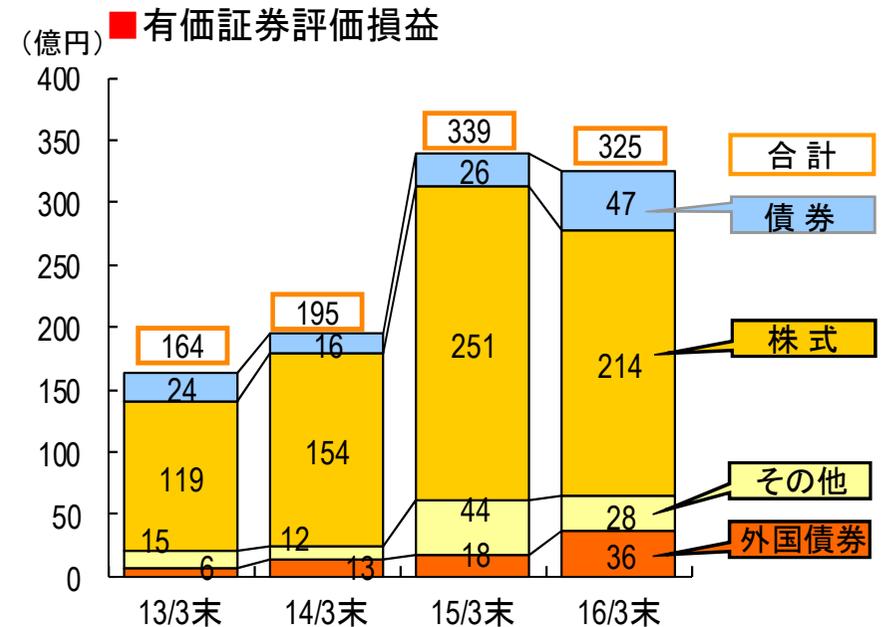
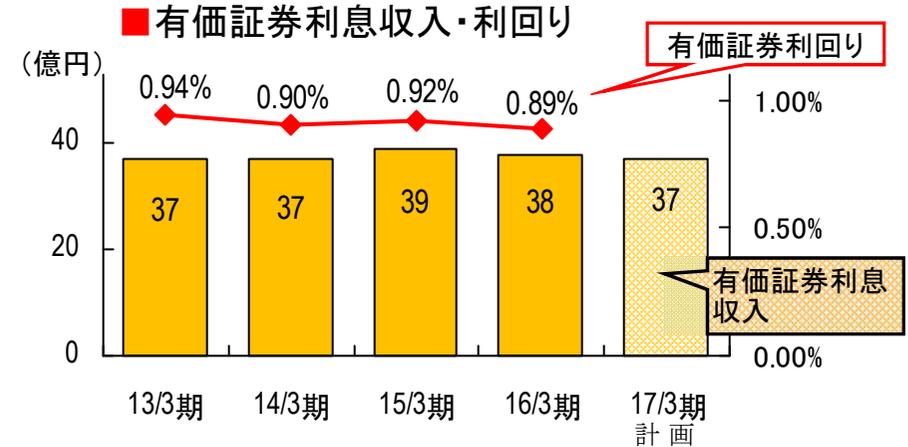
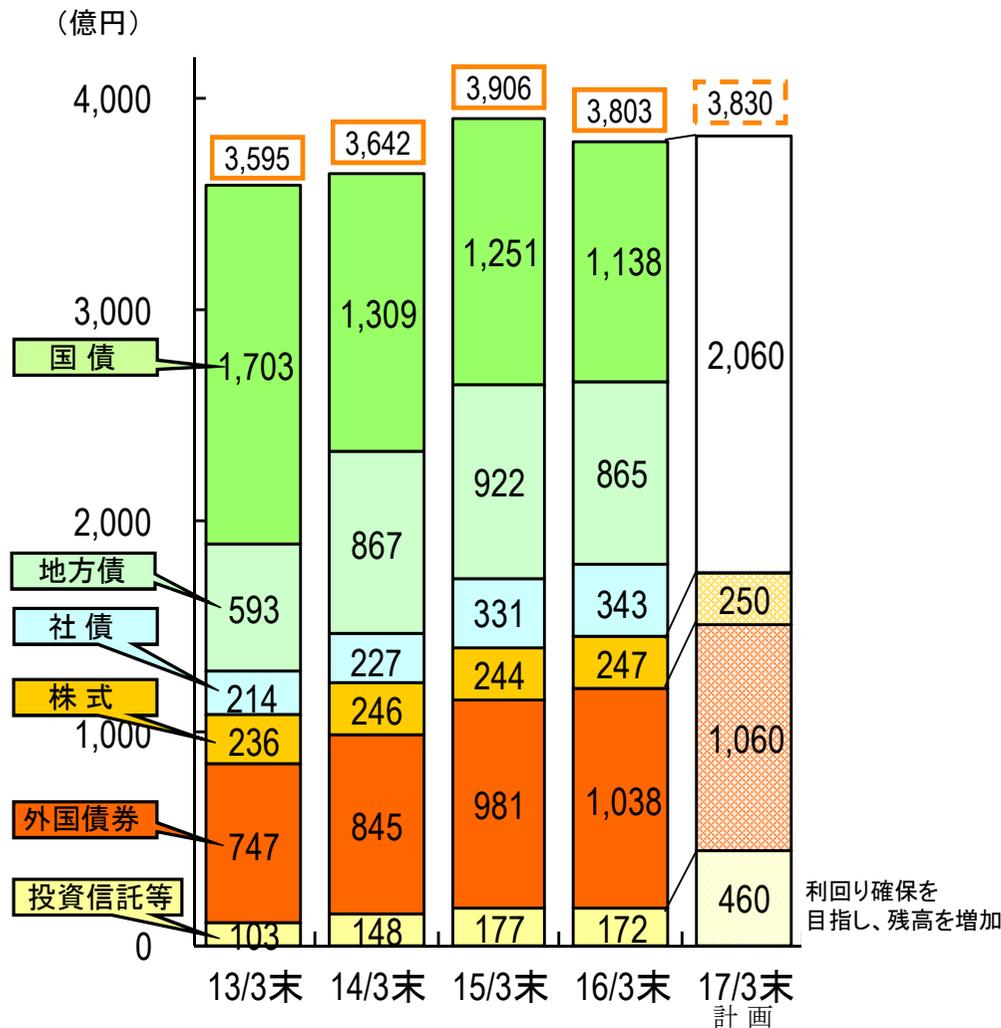
	14/3期→15/3期		15/3期→16/3期		16/3期→17/3期計画	
	貸金	預金	貸金	預金	貸金	預金
ボリューム要因	+6	▲0	+4	▲0	+2	▲0
利回り要因	▲12	△0	▲12	△1	▲7	△4

有価証券運用



利回り確保を目指し、外国債券残高を若干増加させ、有価証券利息収入を維持

有価証券残高（時価評価前簿価） ※私募債は除く



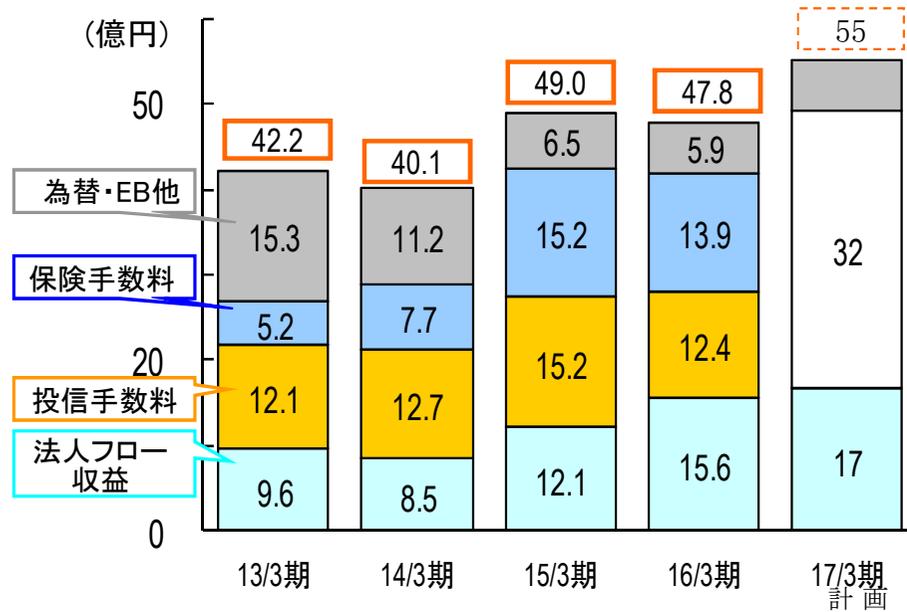
〈12,397円〉〈14,827円〉〈19,206円〉〈16,758円〉 日経平均株価

非金利収益

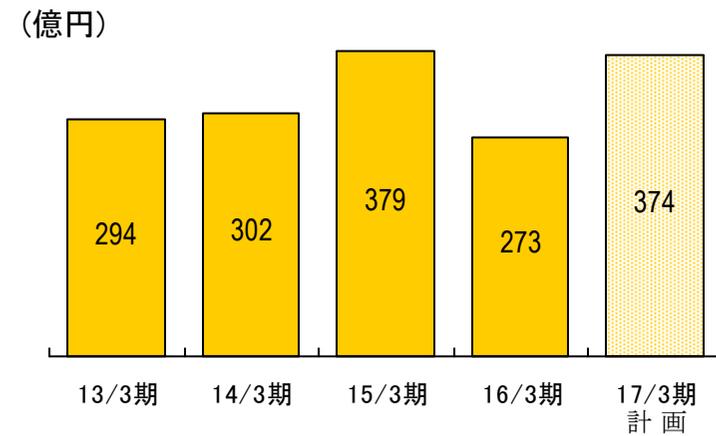


16/3期は、市場環境の不透明さから投資信託・保険の販売が減少 → 17/3期は大幅な非金利収益増加を目指す

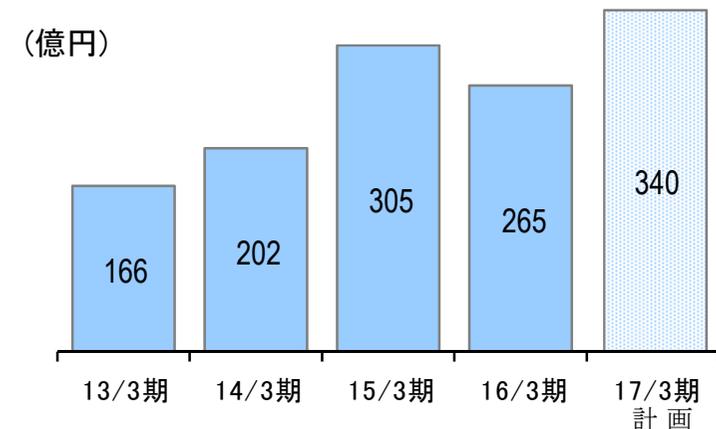
■ 非金利収益



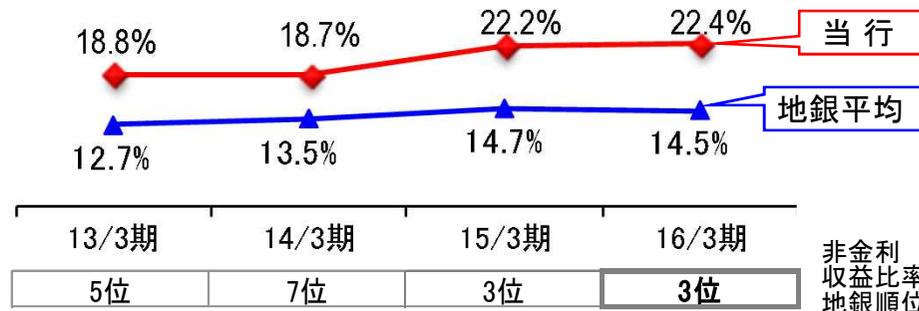
■ 投資信託販売額



■ 保険販売額

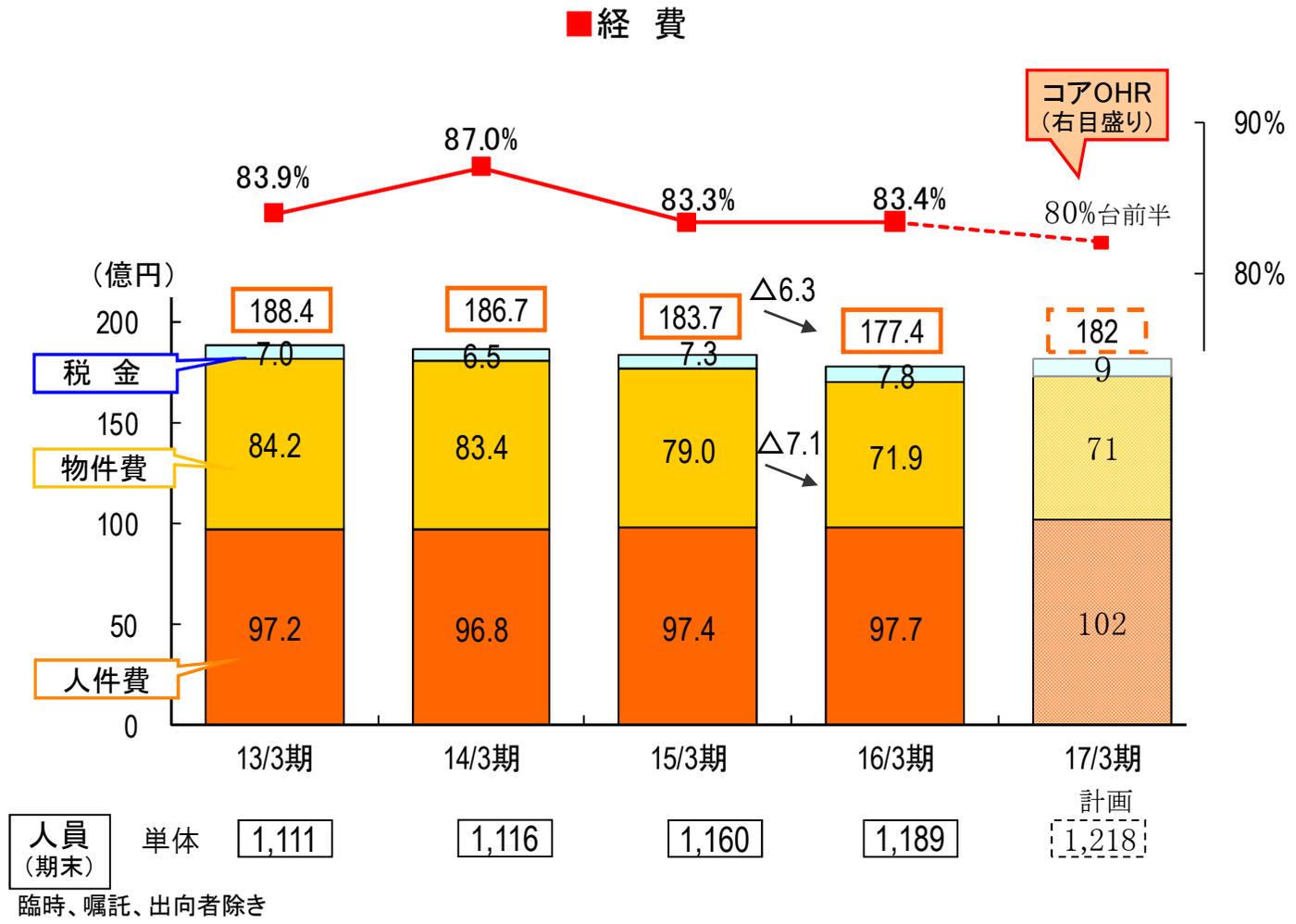


■ 非金利収益比率 (非金利収益/コア業務粗利益)



経費

- 預金保険料の減少やオンラインシステム償却の減少から、経費全体で△6億円圧縮
- 17/3期は退職給付費用や基幹系システムの基盤更改などにより、経費全体で増加する計画



信用コスト



- 信用コストは、新規発生の減少等により、前期比△4億円減少
- 17/3期の信用コストは、5億円程度を想定

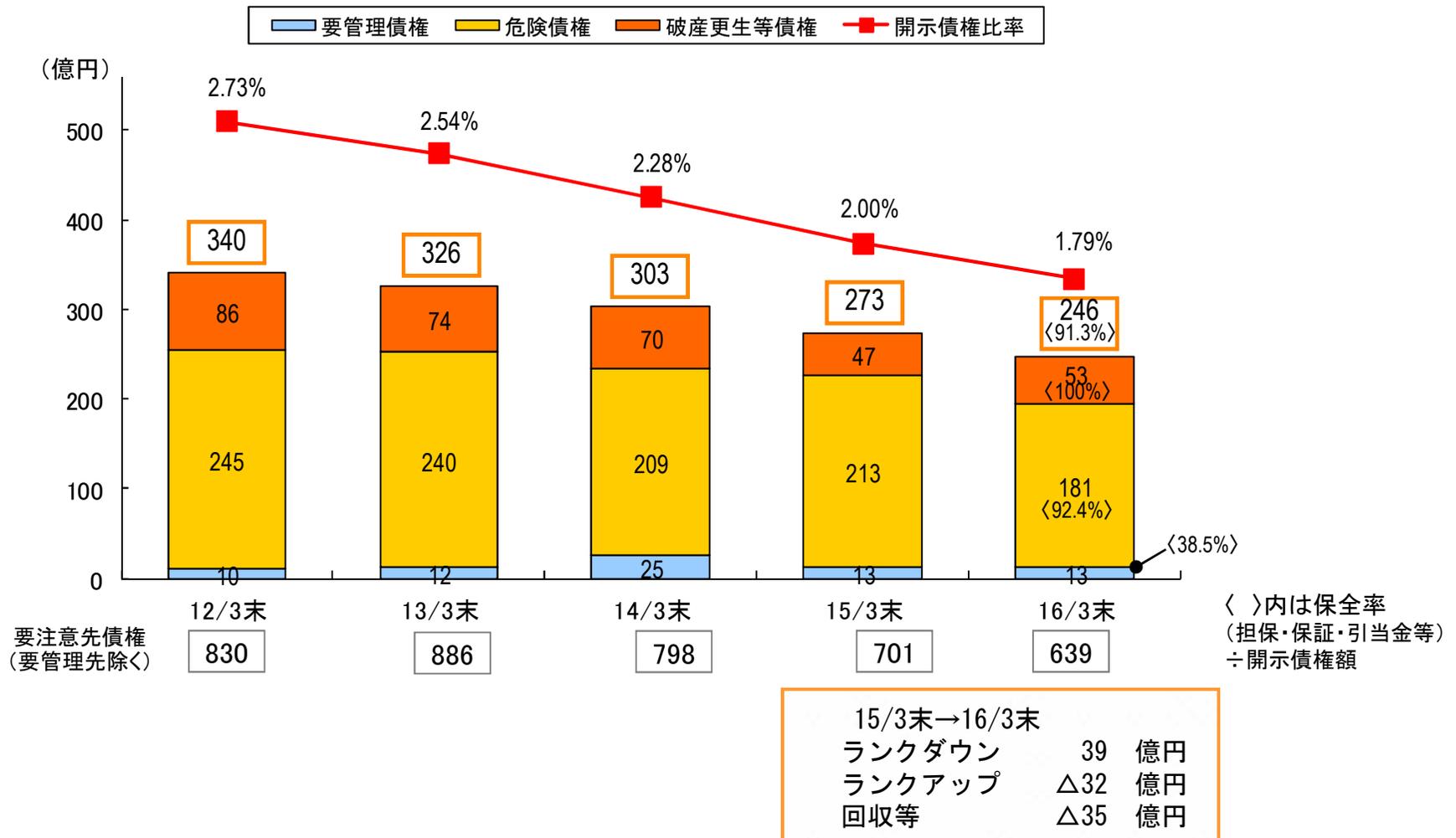
信用コスト

(百万円)

	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	前期比	17/3期予想
個別貸倒引当金繰入	1,743	408	624	614	38	△ 576	
新規発生	963	393	770	876	297	△ 579	
既存先増減・回収等	780	16	△ 146	△ 262	△ 259	3	
償却・債権売却等	26	2	44	7	0	△ 7	
不良債権処理額①	1,769	411	668	621	38	△ 583	
一般貸倒引当金繰入②	△ 676	△ 141	△ 88	△ 332	△ 143	189	
償却債権取立益③	-	145	0	6	26	20	
信用コスト④(=①+②-③)	1,092	124	580	282	△ 131	△ 413	500
貸出金平残(億円)⑤	11,548	11,917	12,358	12,884	13,272	388	
信用コスト率 ④/⑤	0.10%	0.01%	0.05%	0.02%	△0.01%	△0.03%	0.04%

金融再生法開示債権比率は1%台まで低下

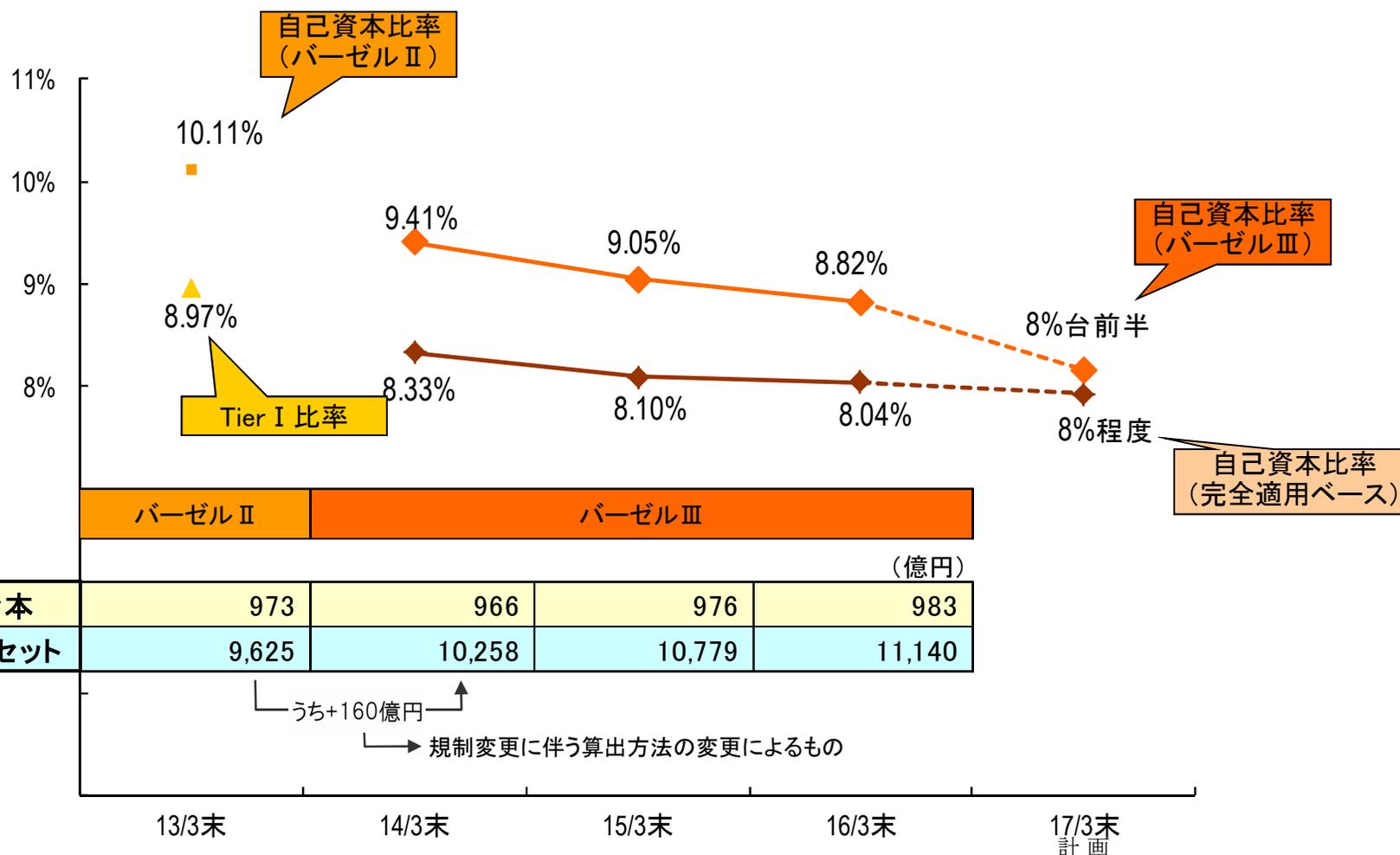
金融再生法開示債権額・比率



自己資本比率

■ 利益の積上げ、リスクアセットのコントロールにより、自己資本比率の安定的な上昇を目指す

■ 自己資本比率等（単体）



中期経営計画

「成長 ～地域とともに～」 の進捗について

中期経営計画

成長 ～地域とともに～

2015年4月～2018年3月

目指す姿

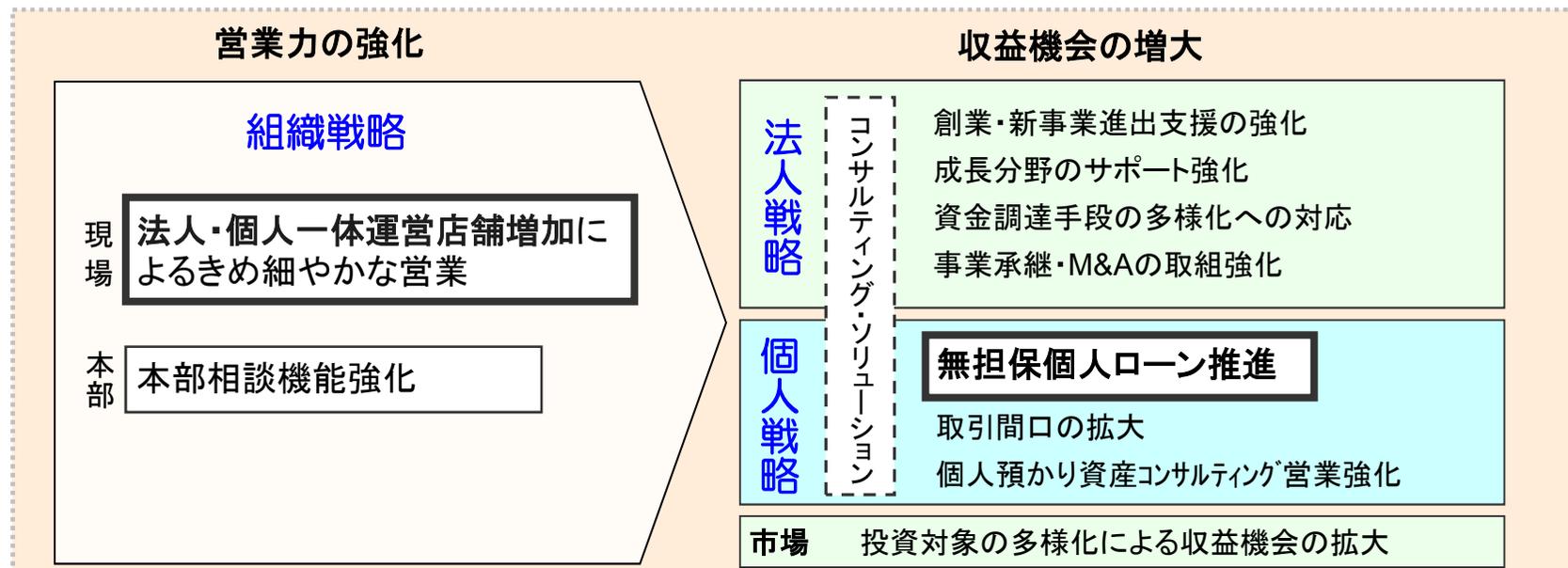
地元で確固たる存在感を示し、成長し続ける銀行

重点

持続的成長に
不可欠な
間口の拡大

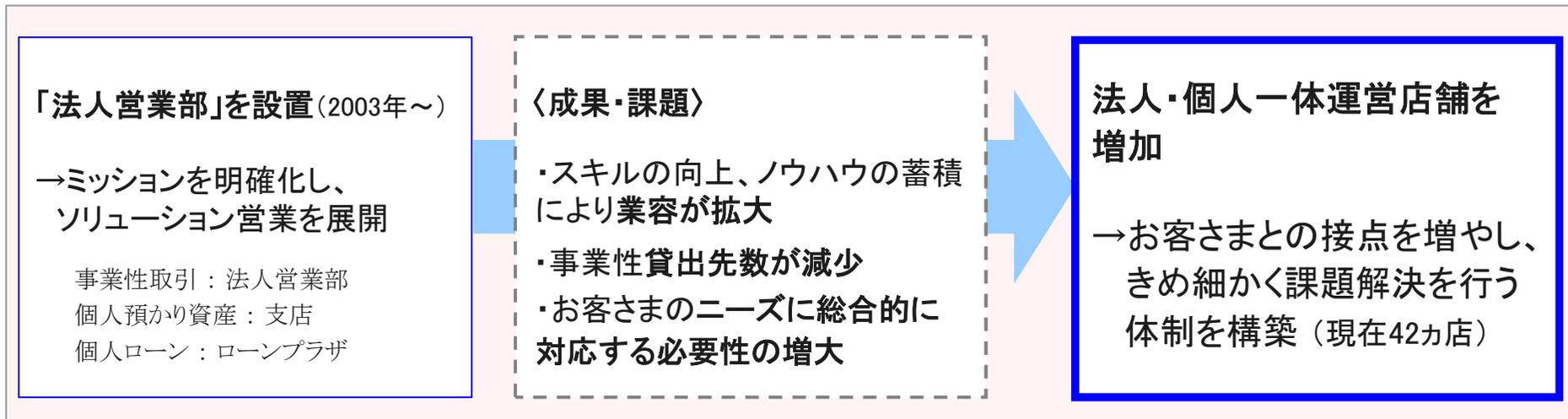
トップライン
収益の増強

■成長戦略



■ お客さまとの接点を増やし、きめ細かく課題解決を行う体制を構築

■ 営業体制の変遷



◆フルバンキング化(法人・個人一体運営店舗)の目的

- ・法人、個人ともに細かく間口を拡大する
- ↓
- ・金融サービスを提供し、ビジネスチャンスをつかむ
- ↓
- ・収益案件につなげる



実力の向上 = 地力をつける

全支店で法人対応をできる体制（フルバンキング化）を18/3末までに構築

- 取引先のライフステージに応じた課題解決策を提案
- 資金調達手段の多様化に対し、高度な金融サービスにも対応

きめ細やかなソリューション営業の展開

■ ライフステージ等に応じたソリューション



〈取組事例〉

・JBICとの協調融資

JBICと連携し、当行取引先およびタイ現地法人へ融資を実行し、海外での事業拡大を支援。

・LBOファイナンスを活用した支援

レジャー施設の事業承継支援を目的に実施。

・クラウドファンディングによる資金調達支援

ミュージックセキュリティーズと連携し、マイクロ投資ファンド設立を支援。

・事業承継支援

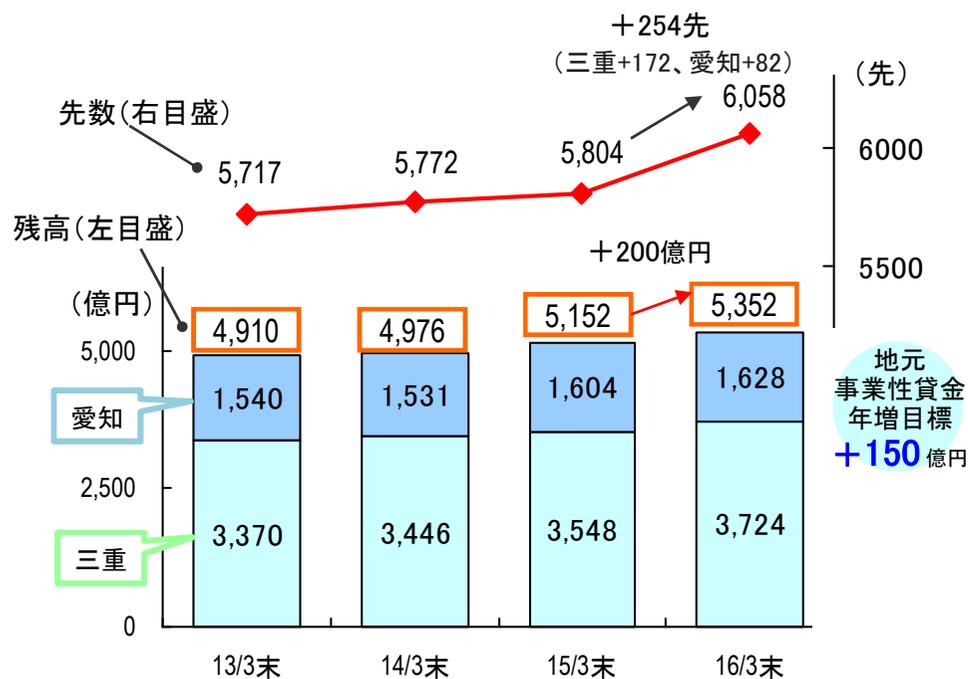
太陽光発電設備設置をシ・ローンにより支援。
本業の収益補完に加え、太陽光発電設備の償却により純資産が圧縮され、自社株承継をスムーズにできるスキームを構築。

・M&A

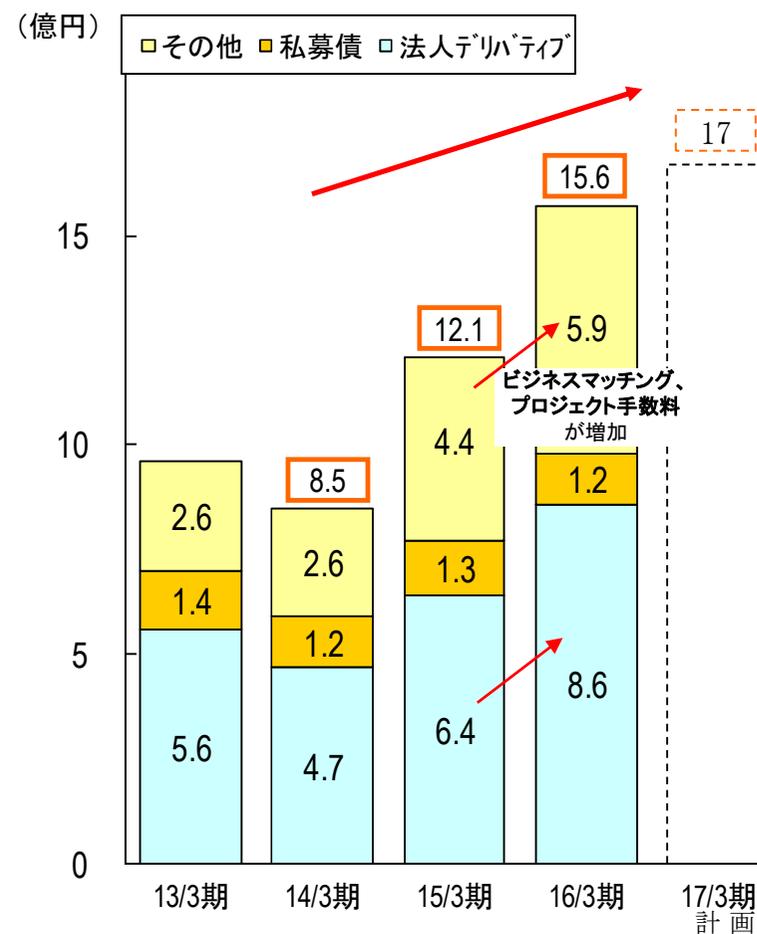
取引先の介護施設売却の意向を、別の取引先に持込みM&Aを成約。

- 地元事業性貸出先数を着実に増加させ、事業性貸金を増強
- 手数料を加味した収益性を追求

■ 三重・愛知 事業性貸出 先数・残高



■ 法人フロー収益



■ 地域別事業性貸金利回り (16/3月・月中)

地域	三重	愛知	東京	大阪	全体
金利回り	1.22%	1.07%	0.68%	0.84%	1.00%

■ 無担保個人ローンを住宅ローンと並ぶ柱として増強

個人ローンの推進

■ 個人ローン残高

(億円)

	13/3末	14/3末	15/3末	16/3末	前年比
個人ローン	3,588	3,943	4,174	4,301	127
住宅ローン※	3,538	3,891	4,120	4,233	113
うち三重	1,665	1,734	1,782	1,825	43
うち愛知	1,850	2,136	2,320	2,391	71
無担保個人ローン※	46	51	57	75	18

※無担保の住宅・リフォームローンを重複計上

無担保
個人ローン
年増目標
+50億円

■ 無担保個人ローン 強化策

- ・ローン統括部の設置
- ・プロモーションの強化
- ・商品ラインアップの拡充
- ・キャンペーンの拡充
- ・商品内容の改定

■ 無担保個人ローン申込件数、取組金額

	15年度	前年比	
申込件数(件)	6,173	3,288	2.1倍
取組金額(億円)	39	19	2.0倍

預かり資産の増強

フルバンキング化による個人間口拡大 …効率的な渉外活動による間口拡大およびオーナー取引の強化

ロビーコンシェルジュの配置 …支店業務全般(預かり資産、個人ローン等)に携わるスペシャリストとして選抜(現在18カ店)

「iPad」を活用した投信情報提供機能の強化 …最新の投信保有情報を提供できる新システムの運用を開始

保険コンサルティングの強化 …保険会社からの出向者による個人向けコンサルティング・セールスの展開

- 収益性、健全性を兼ね備えた水準として、5項目（ROE、自己資本比率（完全適用ベース）、コア業務純益、地元貸出金残高、個人預かり資産残高）について中期経営計画目標を設定

■ 中期経営計画 計数目標

	2015年 3月期 (スタート時)	2016年3月期 実績	2017年3月期 計画	2018年3月期 計画 (最終年度)
ROE (自己資本利益率)	2.82%	3.04%	2%台前半	3%以上
自己資本比率 (完全適用ベース)	8.10%	8.04%	8%程度	8%台
コア業務純益	37億円	35億円	37億円	50億円
地元(三重・愛知) 貸出金末残	9,627億円	9,956億円	10,170億円	10,900億円
個人預かり資産末残	14,252億円	14,395億円	15,140億円	16,350億円

→安定的に5%を上回る
水準を目指す

■ 「女性活躍の加速」、「地方創生の取組み」を通じて、地元で確固たる存在感を示す

女性活躍の加速

女性職員の活躍を加速し、競争力を強化

- ・指導的立場の職員のうち、女性の割合を10%→20%へ引上げ
15/3月 10.6% → 16/3月 16.4%
- ・東海三県で初めて「プラチナくるみん」を取得



<「プラチナくるみん」認定基準(一部抜粋)>

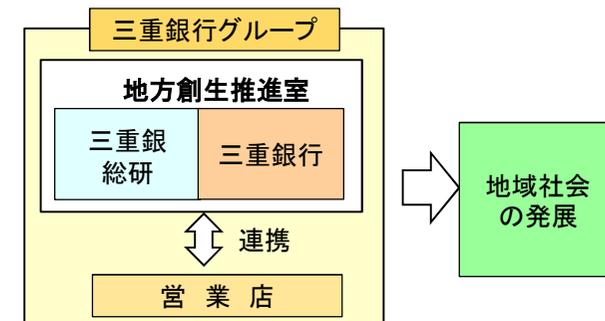
- ・配偶者が出産した男性労働者に占める育児休業等を取得した者の割合が13%以上 ……当行は17%
- ・出産した女性労働者のうち、子の1歳誕生日まで継続して在職している者の割合が90%以上
- ・女性労働者が就業を継続し、活躍できるよう、能力の向上やキャリア形成の支援のための取組みを実施



地方創生への取組み

地方銀行としての「コーディネート力」を活かして地域資源を活性化

- ・「地方創生推進室」の設置 (地方創生プロジェクトチームを発展的に再編)
→「地方創生」に資する企画を立案するとともに、営業店と連携を強化し、
三重銀行グループ一体で実効性の高い取組みを推進



地域とともに みなさまとともに

